

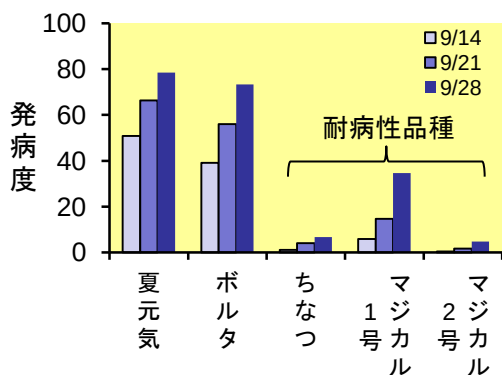


きゅうり褐斑病に困っていませんか？

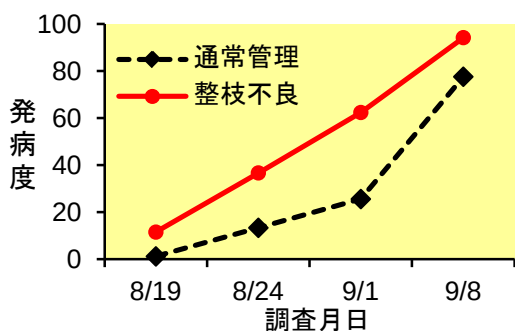
～栽培方法と農薬散布で総合的に防除しよう～



多発によりきゅうりハウスが全滅



耐病性品種の利用による発病抑制効果



適切な整枝・収穫など草勢の維持の発病抑制効果

道内主要産地で農薬の耐性菌が発生しています

効果のある農薬は？

薬剤名	希釈倍数	防除価			判定
		2008年 多発生 無処理 発病度 59.1	2010年 甚発生 無処理 発病度 80.0	2011年 甚発生 無処理 発病度 77.0	
マンゼブ水和剤	600	98.0	84.4	98.0	A
ボスカリド水和剤	1500	99.2			(A)**
TPN水和剤F	1000	83.0		83.3	A
ジェトフェンカルブ・プロシミドン水和剤	1500		85.1	81.6	A
ポリカーバメート水和剤	600		62.0	93.5	A-B
フルジオキシニル水和剤F	1000		66.4	90.6	A-B
メタラキシル・TPN顆粒水和剤	1000			82.5	A
イミノクタジナルベシル酸塩水和剤F	2000	43.2			C
メバニピリム水和剤F	2000	-2.0			D
アゾキシストロビン水和剤F	2000	-11.2			D
マンゼブ水和剤F	800		53.9		C
ノニルフェノールスルホン酸銅水和剤	500		15.9		D
塩基性塩化銅*	500		17.6		D
キャブタン水和剤	600		23.7		D

判定: A:防除価81以上、B:61～80、C:41～60、D:40以下

網かけ: Bランク以上 (効果があると判定)

* 斑点細菌病に登録有り

**耐性菌が確認されている



初発確認を徹底する

初発後ただちに
A～B評価の薬剤を
1週間間隔で
ローテーション散布

耕種的な防除

耐病性品種の利用

適正な栽培管理による草勢維持

- ・排水対策
- ・適正な施肥
- ・定植時の地温(低温は避ける)
- ・温度管理(高温は避ける)
- ・風通しを良くする
- ・適正な灌水、整枝、収穫

薬剤防除

初発直後から約1週間間隔で
下記の薬剤をローテーション散布
(できるだけ罹病葉除去後)

- ・マンゼブ水和剤
 - ・TPN水和剤F
 - ・ポリカーバメート水和剤
 - ・フルジオキシニル水和剤F
 - ・ジェトフェンカルブ・プロシミドン水和剤
- (1作期の回数はなるべく少なく)

栽培終了後

罹病葉残渣除去、資材消毒

【きゅうり褐斑病の耐性菌発生に対応した防除対策】

